

大阪は「まち」がほんまにおもしろい

大阪 OSAKA あそ歩 ASOBO

アートな港町・築港散歩 ～赤レンガ倉庫から日本一低い山・天保山登頂へ～

日本一低い山・天保山の山頂に登って、築港の歴史に触れてから、個性が光るアートスポットや港風情が漂う赤煉瓦倉庫や近代建築を巡ります。まちを歩いていると、時折、遠くの方から聞こえてくる船の汽笛にも、そっと耳をすませてください。

① 天保山ハーバービレッジ

平成2年(1990)開業。天保山大観覧車や世界最大級的水族館・海遊館などがあります。

② 日本一低い山・天保山

天保2年(1831)、淀川が運ぶ土砂堆積で、大坂市中に船が入れなくなったので浚渫が行われ、その土砂で築山されました。当初は十間(約20メートル)ほどの高さで、高灯籠(灯台)が設けられ、「目印山」と呼ばれたといひます。やがて桜を植えて茶店が設置されると大坂でも有数の行楽地。ところが安政元年(1854)にロシア軍艦ディアナ号が来航すると、攘夷の思想が高まり山を削り取って砲台を設置。西洋式の城塞となりました。明治時代はまた平和な時代となったので、海水浴場「海浜院」や天保山遊園などが出来ましたが、すぐに廃れてしまい、戦後に公園として整備され、現在に至ります。天保山は戦後、地下水汲み上げで地盤沈下が起こり、昭和46年(1971)に7.1メートルだったのが、昭和52年(1977)には4.7メートルまで標高が低下。現在は4.53メートルで留まっています。平成5年(1993)、地形図から山名が抹消されましたが、地元の熱烈な要望によって平成8年(1996)に再掲載されました。国土地理院発行の地形図に、山名と共に載っている山の中では日本一低い山です。山頂に二等三角点があります。

③ 港住吉神社

住吉大社で御祓いの神事を行い、海に向かってお札を流すと、潮流の関係で、決まって天保山界隈にたどり着くという不思議がありました。そこで、住吉大社の末社として、天保13年(1842)に、航海や漁撈の安全を祈って祀られたといひます。当初は天保山上に建てられていましたが、砲台をつくるために移転。ところが移転先に運河を通す計画が持ち上がったため、大正6年(1917)、さらに移転して現在地にご鎮座しました。社殿は戦災で焼失して戦後再建されたものです。境内には日露戦争の軍艦の砲弾2発が奉納されていますが、これは築港が大軍出征の足場となった由縁によります。

④ 海岸通ギャラリーCASO

平成12年(2000)、住友倉庫によって現代美術を中心としたスペースとして開設されました。建物は築30年の鉄骨造の倉庫を改修したものです。



⑤ 赤レンガ倉庫

大正12年(1923)に住友倉庫によって建設。大阪に残る数少ないレンガ建築で、平成11年(1999)に住友倉庫から大阪市に移管されました。昭和3年(1928)には、赤レンガ旧200倉庫と旧300倉庫の間に臨港鉄道の側線が通り、ここから国内各地へ貨物列車が走りました。当時の大阪市は関東大震災で疲弊した東京市を凌駕して、日本最大の商工業都市となり、「大大阪」と呼ばれる繁栄の時代を迎えていました。赤レンガ倉庫のある築港一帯は、その大大阪の玄関口として、人や貨物が行き交う海陸交通の結節点として大いに賑わいました。(2011年現在非公開)

⑥ 築港高野山

正式名称は高野山真言宗準別格本山築港高野山釈迦院といひます。明治43年(1910)に河内の弘川寺の塔頭「釈迦院」の寺号を築港に移しました。かつて、弘法大師が難波津から遣唐使船に乗って唐にわたって経典を求めたことから、その聖跡を顕彰するために建立されました。7800坪という広大な寺域を誇る大伽藍で、完成した当初は「東の四天王寺、西の築港高野山」と称せられるほど参詣者が溢れて股賑を極め、毎月21日の縁日には屋台が130店あまりも出たといひます。しかし、昭和20年(1945)6月1日の大阪大空襲で全焼。当時の築港・天保山には軍事工場などがあったので、米軍に徹底的に空襲されて、ほぼ全土が壊滅状態となりました。当時の記録によると戦前21万人を超えた港区の人口は、疎開と空襲で終戦直後には僅か1万人になったといひます。戦後に本堂を再建しましたが、平成7年(1995)の阪神淡路大震災で倒壊寸前となったので解体。現在の本堂は平成12年(2000)に再建したものです。

⑦ 築港温泉

地域に愛される大衆浴場。風呂場や脱衣所を利用して、室内ミニコンサートや写真展も開かれるコミュニティスペースとしても活用されています。

⑧ piaNPO

大阪市港湾局の旧庁舎を利用した建物で、アジア初の規模大な国際交流・国際協力NPO(非営利組織)の拠点施設となっています。

⑨ 商船三井 築港ビル/天満屋ビル

昭和8年(1933)竣工です。3階建てですが、正面に見えている玄関のところは元の2階になります。2度の台風の影響で、前の道が盛り土されて、1階だったところが半地下のようになりました。今は1階(以前の2階)は、ギャラリーとして使われています。天満屋ビルは昭和10年(1935)竣工で、元は回漕店の社屋兼住宅として建設されました。このビルも商船三井ビル同様に整備された際、1階が半地下状態になったので2階のバルコニーだったところへ階段を取り付け玄関にしています。現在は喫茶店「ハハハハ」が営業しています。